

「妻と次女からの暴力に怯える男性」 ～度重なる浮気発覚後、妻の仕打ちがエスカレート～

- Cさん
- 年齢：61歳
- 性別：男性
- 人間関係

【身から出た錆】

自営業を営むCさんは、毎日仕事が終わって帰宅するのが憂鬱で仕方なく、数ヶ月で体重は急激に7キロも減ってしまうほど精神的に追い詰められて相談に来た。その理由は、2つ年上の妻と、社会人になったばかりの次女からの度重なる暴言と暴力である。事の発端は3年前、キャバクラに勤める女性との浮気がバレたことがキッカケだった。それ以降、日常的に残業とウソをついての朝帰り、浮気相手との携帯メールが妻に見つかったことが決定的だった。今までも何度となく浮気がばれていたが、妻は子育てに追われながら時折悲しい表情を見せるだけで、特に責め立てられるようなことはなかった。それをいいことに調子に乗ったCさんは、妻が浮気なんて気にしていないだろうと高をくくり、何度も繰り返し浮気をした。妻にバレないような配慮や用心もしなかった。しかし、子育てが終わり、22歳の次女が加わったことで、それまで溜め込んでいた妻のうっぷんがぶちまけられるようになった。以来、関係性の構図が逆転したのである。

【28年分の反撃に出た妻】

その頃からである。妻と次女はCさんが帰宅する夜7時には既に夕食を済ませてしまっている。Cさんの食事はかろうじて残されてはいるものの、何時に帰宅してもテーブルに置きっぱなし。洗濯もしてくれない。Cさんの書斎の掃除も一切してくれなくなった。妻とは以前までは同じベッドで寝ていたが、Cさんは現在、クローゼットの中に布団を敷いて寝る生活を強いられている。妻子から「いびきがうるさい」と言われて、物置部屋に寝袋で寝たこともあった。さらに、帰宅が夜10時を過ぎると玄関のチェーンがかけられて、家に入ることも出来ないため、ある時は一人でユースホステルに泊ったこともある。幼い頃は父親であるCさんを慕っていた次女も、今では「ジジイ、汚ねえ」「クサイ」などと平気で暴言を吐くようになってしまった。妻になじられ、次女からはボロ雑巾のような扱いを受ける。「悪かった」と浮気について謝ったことをキッカケに、Cさんを追い詰める行動は次第にエスカレートしていった。

【行き場を失った男性】

今まで妻に甘えていた分、追い詰められた男性は弱いもので、先々のことを考えると次第に逃げ場がなくなって行った。Cさんはここへ来るまでの間、警察や弁護士に相談に行ったこともあったがDVとは認めてもらえず、話すらまともに聞いてもらえなかった。男性がDV被害者である場合、この様に受け皿が少ないのが現状だ。思いつく限りで助けを求めたが、全てで門前払い同様の扱いを受け、放心状態で相談にやってきたのだった。

【妻の言い分】

数日後、夫婦揃ってやってきた。妻側は「夫の浮気は7回目。私は結婚してからずっと耐えてきたけど、我慢の限界。」とのこと。しかし、妻の怒りはヒートアップしとどまる所を知らない。3年間、この日まで妻は夫に対して「仕返し」という名目でイジメをし続けて来たのだが、妻にイジメという意識はない。さらにまとめていくと、Cさんは既に夫婦としてやっていく自信はなく、妻は夫に愛想を尽かしている。次女は次女で「家族を裏切った父親の顔なんてみたくない」と頑なに引かない。既に結婚して独立している長男・長女も、この次女も、両親の別居もしくは離婚には賛同していた。あとは夫婦がどう決めるか。「子供はもう成人しているから親権や養育費は発生しない。あとは家のローンや年金だ。これをどうするか。」現実的な話を詰めていった。

【これからどうするか】

話し合いの末、慰謝料代わりにCさんが家のローンを払うということと、家は妻に贈るという選択をした。妻はそんなに別れたくはなかったようだが、成人した子供達が父親を頑なに拒否していたため、今回は既に成人してはいるものの、子供達の意見に従った部分大きい。

【ここが POINT !】

このケースでは大事な事は、夫婦が憎しみ合わないよう解決策を考え、幸せになれる道を探すことだ。財産を分けることなどに於いて、夫婦が納得できる地点を見極める力が必要だ。このケースも、こちらが信頼されなければ、私が提案した和解案は了承されなかっただろう。そのような毅然とした姿勢が信頼され、遺恨を残さない解決に結びついたものだと思う。



2014年6月21日(土) 18:30～兵庫県三木市にて玄秀盛のトーク&ライブを開催します。

ぜひ本物の玄の言葉に触れてくださいね。
お問い合わせは TEL:0794-60-1451 まで